

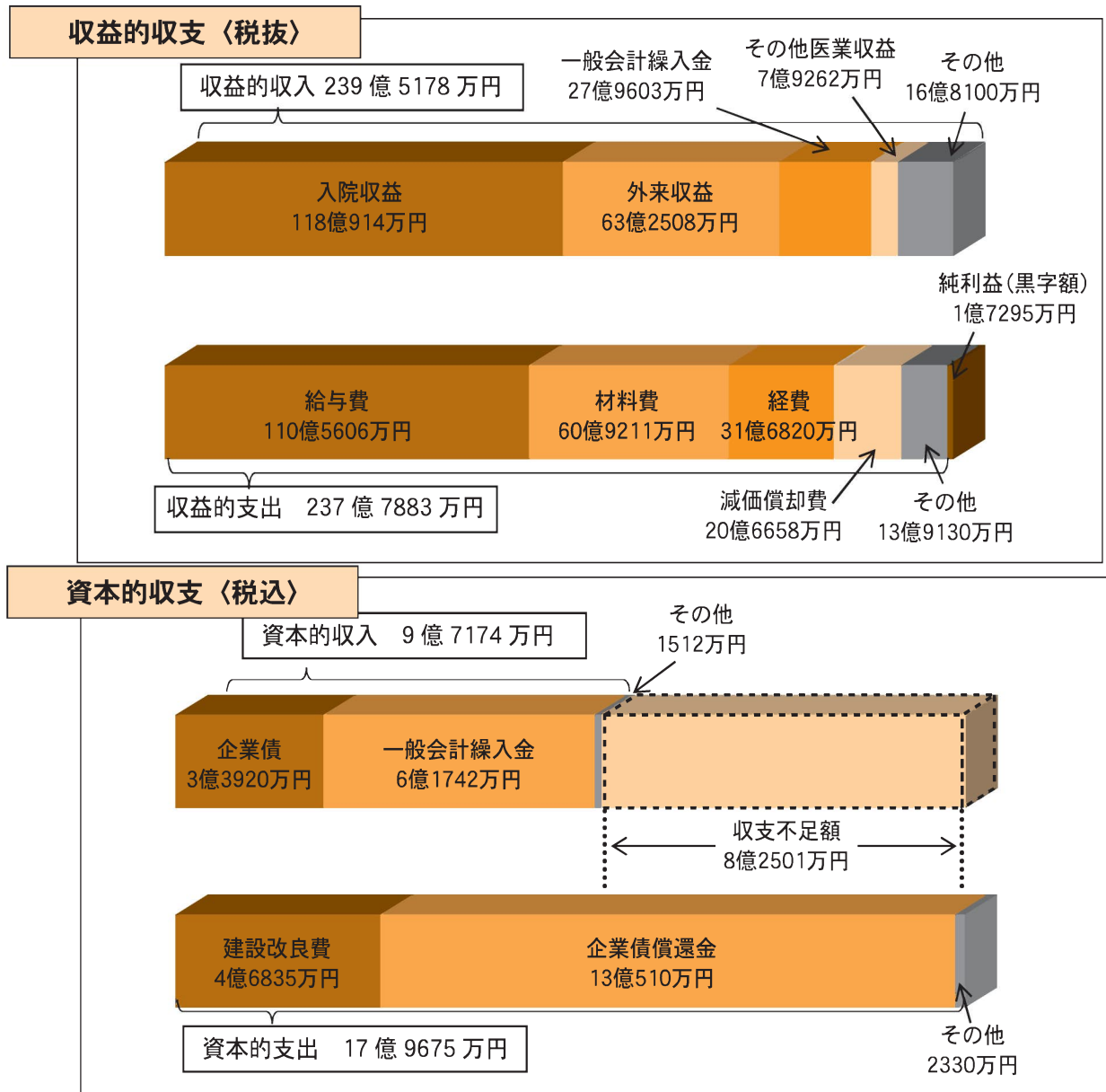
決算概要

平成29年度大崎市病院事業会計決算の概要についてお知らせします。

当病院事業は、各医療施設がそれぞれの機能分担を図りながら、地域の医療ニーズに応えるべく医療機能の充実に努めてきました。本院においては、平成28年度に医療の質の向上を目指し受審した、病院機能評価の認定を受けたことによる新規施設基準の取得や、外来化学療法の増加による診療単価の伸びから医業収益が増加しました。その一方で、500床フル稼働に向けた継続的な医療スタッフの確保や、抗がん剤などの高額薬品の使用量が増加したことにより医業費用も増加しました。この結果、病院事業収益は239億5,178万円、病院事業費用は237億7,883万円、差引で1億7,295万円の純利益を計上することができ、病院事業全体の総収支では、平成28年度に大崎市が策定した「新大崎市民病院改革プラン」の目標値を大きく上回り、新本院移転後初めての黒字決算となりました。

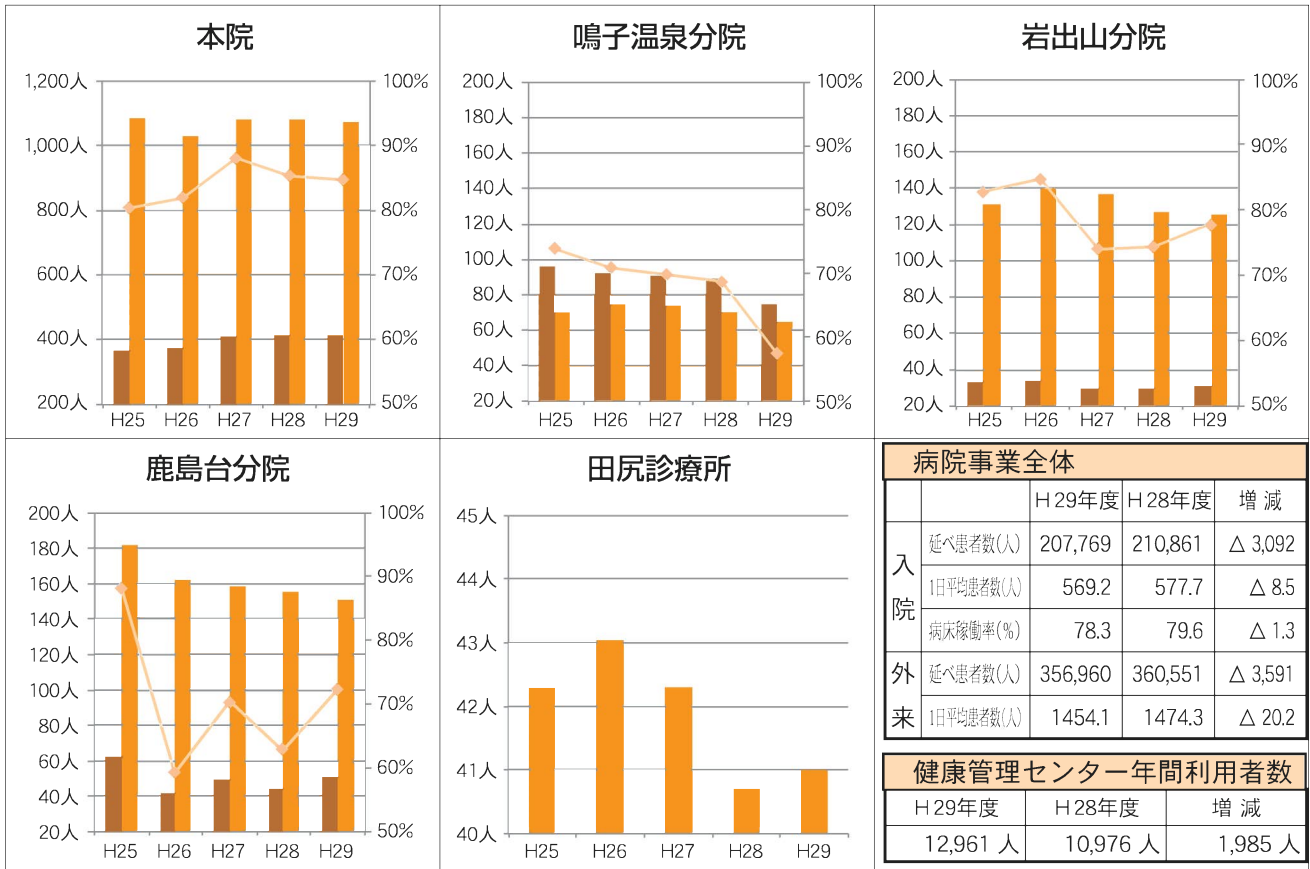
さらに、「新大崎市民病院改革プラン」に基づき、岩出山分院のリハビリ施設建設に向けた実施設計に着手するとともに、病院事業の具体的な行動計画となる「病院ビジョン」の策定に向け取り組みました。

今後は、岩出山分院のリハビリ施設建設や、鳴子温泉分院の建替えを計画的に実行するとともに、「病院理念」に基づく病院運営を念頭に、地域の実情の的確な把握に努めながら、本院、分院及び診療所の機能維持と連携強化を図り、市民が安心できる地域医療の向上に貢献してまいります。



1日平均患者数及び病床稼働率の推移

■入院 ■外来 ▲病床稼働率



用語解説

【収益的収支】

医療サービスの提供やこれに付随する事業など、病院の1年間の経営活動によって生じた収益を「収益的収入」、また、これらの収益を生むために要した費用を「収益的支出」といいます。「収益的収支」とはその差引額のこと、1年間の病院の経営成績を表します。(収入が支出を上回れば「黒字」、下回れば「赤字」です。)

【資本的収支】

医療機器の購入や施設整備に要する支出、また、医療機器購入等のために借入れした企業債の元金返済に要する支出を「資本的支出」、この財源となる企業債や一般会計からの補助金を「資本的収入」といいます。

【資本的収支不足額】

収益的収支における現金の支出を伴わない費用(減価償却費や資産減耗費など)の計上により企業内部に留保される資金(損益勘定留保資金)などで補てんされます。

【病床稼働率】

病院のベッドがどの程度効率的に稼働しているかを示す数字です。100%に近いほど空いているベッドが無い状態で利用されていることとなります。病院の経営の質を示す指標として活用されます。